

# ROTARY INTERNATIONAL

# Rotary 松江ロータリー・クラブ 週報

# MATSUE WEEKLY

2018-19年度国際ロータリーのテーマ  
インスピレーションになろう

No. 3236

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985  
HP: <http://www.matsue-rotary.jp> E-mail: [office@matsue-rotary.jp](mailto:office@matsue-rotary.jp)

## 第3236回例会(平成31年1月23日・水)

### 今週のプログラム

1月23日(水) ゲストスピーチ

「美術館とコレクション」

島根県立美術館 館長 はせがわさぶろう 長谷川三郎氏

### 次週のプログラム

1月30日(水)

「松江4クラブ合同例会」

ホスト: 松江RC  
会場: ホテル一畑平安の間  
時間: 18時30分~20時50分(予定)



本日のエレクトーン 松本悦子さん

### 2019年(平成31年)1月~2月の予定

- 1月30日(水) 松江4クラブ合同例会  
ホスト: 松江RC  
会場: ホテル一畑平安の間  
時間: 18時30分~20時50分(予定)  
例会時間変更のため昼の例会なし
- 2月2日(土) 家族交流「宍道湖の幸を食べる会」  
場所: 福田正明会員自宅  
時間: 午後5時30分より  
電車で来場の皆様の到着を待って開宴

### 例会変更のお知らせ

月 日	クラブ名	受付場所
1月23日(水)	大 社	出雲商工会内事務局(大社町杵築南1344)
1月24日(木)	平 田	ホテルほり江
1月25日(金)	出 雲 南	出雲ロイヤルホテル内事務局
1月28日(月)	松 江 南	松江エクセルホテル東急
1月29日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく
1月31日(木)	松 江 東	ホテル一畑
2月7日(木)	米 子 中 央	ANAクラウンプラザホテル米子
2月14日(木)	松 江 東	ホテル一畑
2月18日(月)	米 子 南	ANAクラウンプラザホテル米子
2月21日(木)	平 田	ホテルほり江
2月26日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく

## 第3235回例会記録

平成31年1月16日(水・雨時々曇)

会員数 67名  
出席者数 34名  
欠席者数 33名  
出席率 56.90%(出席免除会員含む)  
前々回補正 88.71%(出席免除会員含む)

ビジター なし  
メーキャップ 佐藤明(平田)  
今井、古瀬(松江南)、永通、波多野、榊井(松江東)  
内田、勝谷、加来(松江しんじ湖)

## 会務報告

### 西村会長

ゲストスピーカー紹介  
アトリエ・MITSUKO代表 えんどうみつこ 遠藤光子様  
退会会員のお知らせ  
内藤守会員は昨年12月末をもって退会

### 藤井幹事

ロータリーの友1月号配付。  
3月10日(日)のIMの交通手段は松江4クラブ合同貸し切りバスと決まりました。改めてバスの時間等につきましては事務局から連絡いたします。

## 委員会報告

クラブ管理運営 井ノ口会員  
出席報告  
広報委員会 廣江副委員長  
ロータリーの友1月号の紹介

## スピーチ

『言葉はがき』を使った営業の秘訣  
アトリエ・MITSUKO代表 えんどうみつこ 遠藤光子氏



## ニコニコ箱

29,000円

谷口正(遠藤光子様 本日のスピーチをお引き受けいただきありがとうございます。よろしく願います。)  
藤井(遠藤様ようこそいらっしゃいました。)  
紀野(遠藤様のスピーチを楽しみにしております。)  
内藤(四十年の長きにわたりロータリーを楽しませていただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。)  
川上(結婚月)

ひとこと  
随想

歳男  
年頭所感  
「木鶏の人」



かつ べ すすむ  
勝 部 晋

私の机の上に一枚の写真が置いてあります。7年前に大学の同門会で数人の医師と撮った写真です。真ん中に座っていらっしやるのが恩師の故川上保雄 昭和大学名誉学長です。川上先生は平成27年7月28日他界されました。享年101歳。

川上先生の業績はたくさんありますが特筆すべきもののひとつとして、気管支ぜんそくやアトピー疾患に対する特異的減感作療法の創始者として著名で、最近の経口減感作療法（経口免疫療法）が世界で主流になりつつありますが特異的減感作療法を凌駕する成果は出ていないのが現状です。私は昭和47年4月に先生の医局に入りました。週2回ある減感作療法の日是全国から、在日大使館の外人も含め患者さんが押し寄せてきて外来の廊下はまさに身動き出来ない状態であったことを懐かしく思い出します。

先生は毎日午後10時まで医局の前の教授室で研究、教育、臨床の仕事をされ、夜間でも重症患者の診察、担当医への指導などをなされ現在では考えられないような激務をされていました。しかし、実際はその後が尋常ではなかったように思います。99歳まで月2回の外来診療を続けられて、

私が参加した学会でも必ずお姿を拝見しました。最後に先生にお会いしたのは4年位前だったと思いますが、学会場の通路で数分間言葉を交わすことが出来ました。その時、なんとも言えない快い気持ちになった事を思い、しばらくあの感覚は何だったのだろうかと思っていましたが後日「すぐれた人というのはその体から独特のエネルギーを出していて相手の気を爽やかにするものだ」という事を知り納得しました。そしていわゆる「木鶏」とはこのような人かと感じました。

先生は温厚篤実な方でありましたが研究、臨床に関しての指導は非常に厳しく時にはその厳しい指導に身体が悲鳴を上げることもありましたが後から振り返って見るとそれが医師になる過程で非常に大切なことであることが分かりました。最近医療現場での労務環境が過酷であることが問題になっていて平成30年12月中旬の読売新聞に順天堂大学の准教授が「医師がどれだけ地獄のような働き方をしているのかを知って欲しい」と述べていましたが昔の比ではないと思っています。先生はあまり多くを話す方ではありませんでしたがお話の内容は非常に的を得ていて10年位心に残る言葉をお話になりました。お亡くなりになった後医学の発展の為にと病理解剖にご自身を献げられました。

新年にあたり門下生の一人としてこの1年精進して行かねばと念じているところです。

（呼吸器科医）